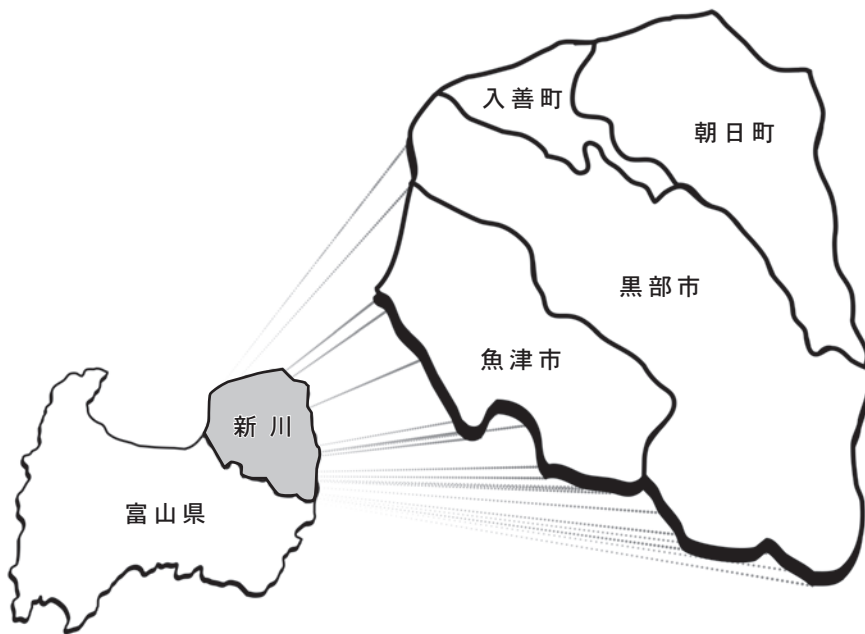


第39回

新川地域発展賞授賞式



と き 令和4年1月30日(日) 午後2時

ところ スカイホテル 魚津

主催 新川経済倶楽部

本 賞

合同会社 善 商

平成22年に入善町商工会青年部の有志が中心となり設立されました。地元の味噌を使った入善ブラウンラーメン、入善高校と協力して唐辛子を使った入善レッドラーメン、JAみな穂さんとのすいかサイダーや桃ジェラート、その他ゼリー・せんべい・日本酒・カレーラーメン等、地元産にこだわり地元の様々な会社・団体・組織と常に一緒になって作り上げてきました。

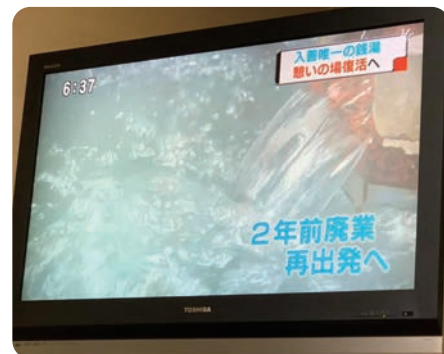
また、撤退されたコンビニエンスストアを、買い物弱者の高齢者、そして商店街の活性化の為に再度オープンさせ経営されております。

それに加え、事業承継が出来ずに廃業されて2年間経っていた銭湯も復活オープンさせました。この銭湯もコンビニと同様に、近隣の方々は勿論町中の唯一の銭湯なので、本当に多くの方々に愛され利用されています。

そしてこの銭湯で高齢者の為に、ネットによるコロナウィルスワクチン接種の予約代行サービスも実施しました。

またこの銭湯は、町の乗り合いタクシー「ウチマエくん」の停留所となっていて、交通手段の無い方々に利用されております。

今後も益々の幅広い御活躍を期待しております。



特別栄誉賞



岩井孝義さん

岩井孝義選手は1996年生まれ、魚津市出身で、12歳のとき、脊髄の癌の摘出手術の後遺症で車いす生活になりました。

その後、主治医の勧めでリハビリのため、14歳から車いすバスケットボールを始めますが、当初はズル休みすることばかり考えていました。先輩からU23の話聞いたことを機にU23日本代表という目標に向かって本気で練習に取り組むようになりました。正確な車いす操作で相手の進路をブロックして味方の攻撃をサポートするプレーなどが持ち味で、2017年カナダのトロントで開催されたU23世界選手権に日本代表メンバーとして出場されました。

2018年の三菱電機ワールドチャレンジカップでは日本代表の全勝優勝に貢献し、攻守に渡る活躍をみせ、ベストプレイヤー賞を受賞しました。

その後、数々の世界大会で活躍しチームの勝利に貢献してこられました。

2021年9月の東京2020パラリンピック競技大会では、見事に銀メダルを獲得され、日本のパラリンピック競技の歴史に残る素晴らしい成績を収められました。その快進撃には日本中が注目し、大きな話題となりました。

また、車いすバスケットボール競技の普及にも取り組まれており、障害者スポーツの向上に多大な貢献をされています。





特別賞

浜辺明弘さん

2021年、コロナ禍で開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開会式及び閉会式のアートディレクターをされ、特にパラリンピックの開会式では全てにおけるアートディレクション（企画、キャストオーディション、全体世界観、映像、会場プロジェクション、衣装、美術、ポスターetc.）を担当されました。

世の中で見かける大手企業の広告の中に多くの仕事があり、代表的な仕事には、サントリーのBOSS「宇宙人ジョーンズ」シリーズやソフトバンクの「白戸家」「ドラえもん」シリーズ、ユニクロ「LifeとWear」、マクドナルド「ごはんバーガー」などのアートディレクションがあります。

地元魚津では、商工会議所や観光協会の依頼を受けて「STAR!UOZU PROJECT」事業の発案・推進、「UO! PAPER」の企画・制作。じゃんとこい魚津まつりのポスターデザインなどにも関与。魚津まつりでは、魚津の原点である海の美しさに注目してほしいと「UO! JAZZ」の発案、企画、演出、ビジュアル・会場装飾を手掛け、魚津バル街・食のガイドブック「UO! CHELIN」のディレクションなどを行い、なんとか魚津を次の世代に繋げようと、地元の発展に寄与されておられます。

また、東京都中板橋商店街「うおづや」の設立に関しての企画や、「うおづや瓦版」の製作を通して、東京でも魚津産の魚介類や農産物を紹介頂き、魚津の知名度向上に務められています。



地域社会賞

あさひフレイル予防サポーターの会

健康な高齢者が介護を必要とする状態に至るまでには、多くの場合、心身の活力が徐々に低下していくような中間的な段階があります。その時点で適切な支援などを行うことによって、介護を必要とする状態になるのを食い止められたり、遅らせたりできると考えられています。この中間段階の状態を「フレイル」と呼びます。

朝日町は、令和元年10月に県内でいち早く、「フレイル」予防活動を提唱する東京大学高齢社会総合研究機構と連携協定を結び、フレイルを予防する地域づくりに取り組んでいます。

そして朝日町の予防事業の一環としてフレイルサポーターを22人養成。

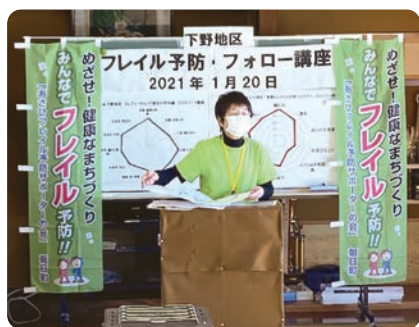
それが地域のシニアボランティアが主体となってフレイル予防に取り組む朝日町の「あさひフレイル予防サポーターの会」です。

フレイル予防の取り組みとして、朝日町の各地区の公民館などで年に数回程度「指輪っかテスト」などの身体測定を行い取り組みを推進されています。

また予防サポーターの育成のために、毎年2月1日（フレイル予防の日）に 第一人者である東京大学 飯島勝也先生とオンラインで結び研修会を開催されています。

また全国のフレイル予防サポーターの会とオンラインで繋がり、ミーティングなども行っています。

今年度も新たに11人がフレイルサポーター養成講座に参加し、地域のフレイル予防に取り組んでいます。



地域社会賞

魚津水族館

1913年（大正2年）に日本海側初の水族館として創設され、日本の水族館の中で最も長い歴史を誇ります。現在の3代目魚津水族館は2021年に40周年を迎え、お客様からの写真やエピソードと共に40年間を振り返る企画展が開催されました。

「北アルプスの溪流から日本海の深海まで」「日本海を科学する」をテーマに、富山の水生生物にこだわった水族博物館で、富山が有する高低差4,000mの環境に合わせた展示が見どころです。

精力的に富山の川や海で調査研究活動を行う一方で、新川地域を初め県内の子供たちの調査や研究発表をサポートする教育普及活動も継続して行っています。

今後も富山を代表する水族館として生物の情報を発信し続け、「現存最古の水族館」としての歴史を継承されることと期待しています。



奨励賞



森田松島さん

鉄道OB会黒東支部に所属する森田さんは、1926（大正15）年生まれの95歳。23年の長きにわたって、入善駅で花壇整備や清掃活動といった美化活動が続けておられます。地域の玄関口である駅や周辺環境を清潔に保つ活動は、町のイメージアップに大きく寄与しています。16歳で旧国鉄に入り、入善駅に配属されました。越中宮崎駅長などを経て、滑川駅長を最後に退職されました。

現在、あいの風とやま鉄道入善駅の構内や周辺をこまめに巡回し、コンクリートの割れ目から生えた雑草取りや花壇の水や肥料やりなどに精を出しておられます。チューリップやグラジオラスなど季節の花苗を運び、花壇に植える活動にも力を入れています。

感謝の心を大切に「体が続く限り、思い出深い入善駅をきれいにしたい」と、今日も駅に足を運んでおられます。



青少年育成賞

くろべ水の少年団指導者協議会

くろべ水の少年団は、郷土のほこりである黒部川の水環境を親しみながら調査することを目的に1992年より活動を開始し、今年で30年を迎えました。

少年団には、黒部市内の小学生4・5・6年生が参加し、6月から8月にかけて活動しています。団員は直接黒部川に入って、簡易キットによる水質しらべや水中に棲むカゲロウの幼虫など水生生物などを調べて水のきれいさを判定しています。これらの結果は、富山一級水系水質汚濁対策連絡協議会が発行する「水生生物による水質の簡易調査結果」に掲載されています。河口付近からトロッコ電車に乗っていく鐘釣まで3か所で、水のきれいさに加え、川の流れや河原の様子、周りの自然なども観察しています。さらに、黒部川の河川敷や荒俣海岸での清掃や治水・利水施設の見学を行うなど、黒部川流域の水環境や水文化を総合的に知る活動となっています。

子供たちが安全に活動できるよう黒部市吉田科学館を拠点として指導者協議会が組織され、国土交通省や黒部市水資源対策協議会、黒部名水会、荒俣地区などの協力を得ながら指導にあたり、地域の方々や元教諭、大学や研究機関などの専門家がボランティアで参加しています。

令和2年、3年とコロナ禍の中での熱中症にも対応しながら限定的な活動になっていますが、団員の自然を見つめる眼は積極的で輝いています。結成以来、子供たちと共に観測しつづけることで、素晴らしい水環境が守られているのかを知る重要な取り組みとなっています。



新人賞



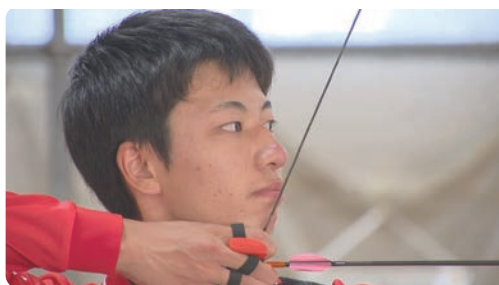
八幡遥真さん

魚津工業高校3年、アーチェリー部の八幡遥真選手は、令和3年8月にポーランドで開かれたアーチェリー世界ユース選手権U-17リカブ・キャデット部門混合団体（29か国参加）で、準優勝という快挙を成し遂げました。

魚津工業高校としては、21年前の平成12年にも世界大会出場経験がありますが、メダル獲得は今回が初めてです。

八幡選手は黒部市荻生在住で、高校に入学してからアーチェリーを始めました。平日は4時間、休日には8時間練習を行うなどアーチェリー漬けの毎日です。

今後の目標は、2年後のパリ五輪に出場し、金メダルを取ることです。八幡選手の今後の活躍を期待しています。



新人賞



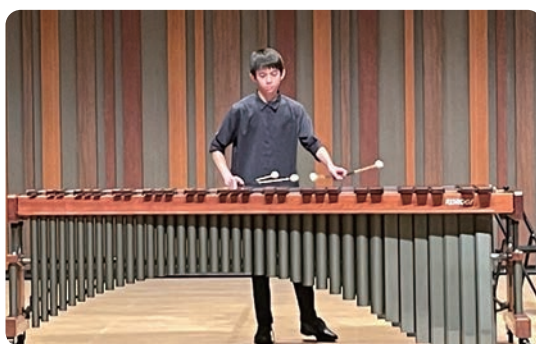
勝田 未来 さん

朝日中学校2年生の勝田未来さんは、小学6年生からマリンバを始め、大谷多賀子氏（黒部市在住・リトルミュージシャン主宰）に師事し、卓越した音楽性と技術力で、全国のソロ演奏者が集う日本クラシック音楽コンクールにて、予選会、本選会を通過し、全国大会に3年連続で出場しました。特に、今年度は10月4日に富山市で開催された本選会を1位で通過し、12月2日に行われた全国大会に出場。打楽器部門中学校の部で、3位入賞（1・2位なし）という好成績を残しました。

また、令和2年度に開催された第25回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテストでも予選、本選を勝ち抜き、全国大会に出場しています。そして、第38回富山県青少年音楽コンクールでは、管打楽器部門小・中学生の部で最優秀賞を獲得しています。

朝日中学校では吹奏楽部に所属し、昨年度は、第33回中部日本個人・重奏コンテストで金賞（打楽器三重奏）、第44回北陸アンサンブルコンテストで金賞（打楽器三重奏）を受賞しました。また、昨年8月に開催された北陸吹奏楽コンクールに朝日中学校を初めての出場へと導いた原動力となりました。

昨年6月に行われた東京2020オリンピック聖火リレーでは、朝日町で4名選出されたうちの一人として聖火ランナーを務め、点火セレモニーにて笑顔でトーチキスを行い、オリンピック開催への機運を高めました。





《感謝状贈呈》

故 岩 井 幸 子 さん

版画家・石井幸子さんの作品は、原風景である広い空と大きな海をモチーフにしたものなどを木版画で表現されておられます。日本版画会展では30回以上、日展で20回以上の入選を重ねて来られました。

当会とは、新川経済倶楽部第19回（平成13年度）地域発展賞・奨励賞の授賞をきっかけに、それまで紙の表彰状だったものを版画の絵入りの表彰状にして頂き関係は約20年となります。

版画の表彰状の作成は、快諾されながらも当会と色々なやり取りをしながら、毎回楽しく素晴らしい作品を制作して頂きました。版画入り表彰状は、新川経済倶楽部オリジナルのものとして受賞者に喜んでいただき、各所で飾ってあるのを拝見しております。

昨年8月不幸にも病気で亡くされました。訃報に接しその功績に深い想いを寄せ哀悼の意を表して感謝状を贈呈し、ご冥福をお祈りしたいと思います。

最後の個展作品から (個展:令和3年3月開催)



第34回発展賞 本賞



春の旋律



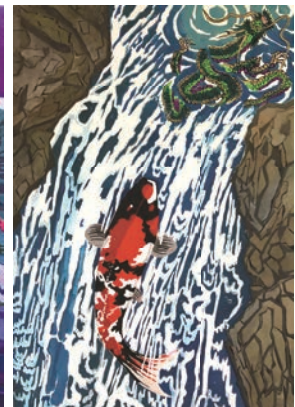
五月の園



第36回発展賞 本賞



炎耀の劔岳



登龍門